

複二型あり。單型は中央に只一群の感覺細胞を有するものである。最始發生するものは凡て此型式のものであつて即ち幼個體に於てはかゝる型式のものが線狀に且つ密に配列されて居る。發生が進むに従つて各感球間の間隔は次第に増大し同時に感球の多くのものは二次的に分裂して複型となる。感球の分裂に於ては先づ感覺細胞が其の間に介在する支柱細胞の増殖によつて若干の群（多くの場合は二個、五個以上のことは發見されない）に分離し次に上表細胞及び色素細胞が感覺細胞群間に浸入し來りそれらを完全に分離す。しかし分裂を完成するものは比較的少く、多くのものは未完成のまゝ退化期に入る。殊に重要な點は感球の分裂軸は感球列の走向と一致せず常に之と交叉する。従つて感球は分裂によつて伍間増加的に附加されるのでない。

(3) 感球列は有尾類と異なり凡て單線にして複線は局部的に存するのみ。八條の系列がみとめられる。頭部に分布するもの即ち head line は五條にして supra-, infra-orbital, supra-, infra-maxillar 及び hyomandibular である。胴尾部に分布する trunk line は dorsal-, middle- 及び ventral lateral line の三條である。而して前者の各系列は第七腦神經の分枝を受け、後者の神經は R. lateralis Vagii 即ち所謂側線神經に屬す。(4) 側線系の原基は尾芽期に出現するが完備した器官として感球が體表に現はれるのは外鰓の消失後である。其後側線系は急速發育して吸盤退化後に完成しまた感球數も最大數に上る。(體の半側面にある感球總數は約 500)。後肢成長期に於ては各系列は完成狀態を保持し従つて感球數にも大なる變化がみとめられない。但し發育の進むにつれ複型感球の數は著しく増加する。感球の退化は後肢完成と共に開始し更に變態期に入り極めて急速に進行して尾部の長さが半減される頃には體表の何れの部分にもそれを發見する能はず。要するに側線系の發生及び退化は大體尾部の運命と一致するものである。(5) 各系列の發生及び退化には一定の順位ありて大體發生順位と退化順位とは互に反對である。即ち早く發生したものは遅くまで残り、これに反して遅く發生したるものは比較的早く退化消失する。(5) 感球列に於ける感球の發生及び退化の方向も互に反對であつて。發生の方向は遠心的であつて、退化方向は求心的である。

XXXII. ブチサンシヨウウオに現はれたる一雙頭畸形に就いて

小山 準 二 (福岡)。

さきに私はイモリ並びにカスミサンシヨウウオに於てこの種の畸形を報告したが、更にブチサンシヨウウオ [*Hynobius naevius* (SCHLEGEL)] に於て一個の双

頭畸形を發見したので報告する。以上の場合に於て之等は何れも自然的に發生したものであつて、成因に至つては知るを得ないが、外的條件によるに非ずして内的條件—即ち原因は生殖細胞自身内に存するに非ずやと推測される。

私は昨年 (1928) 四月初め、之よりさき採集し來りたるブチサンショウ、オの一卵囊中に、一個の双頭畸形を發見してその發育の觀察を續けたが、兩頭は最初全く相稱的に生じたけれども、發育進むに従つて、左頭は正常に發育を續けたに反し、右頭はその發育甚だ不完全で、左頭に對して次第に寄生的位置をとるに至つた。かくて五月初旬に至り孵化したが、生活力著しく衰へたので殺した。双頭にして一體、前肢は兩頭の外側に夫々一個を有した。

切片によつて内部構造を見るに、左頭は殆ど正常であるが、右頭は甚だ不完全にして、脊索、眼、口等全缺して居る。そして共同の消化管に通ずる咽頭及び鰓孔を有するが、骨骼は不完全で、殊に頭蓋に於ては耳殻は左右が合着し、他の部分は單なる一小片のみ。腦も甚だ不完全で、後腦部以下のみであり、後走せる脊髓はやがて消失して居る。心臟は共同の一個であるが、動脈幹は二本存在し、一つは右頭に入つて居る。右側キユヅイエ氏管は右頭より發して靜脈竇に入つて居る。

XXXIII. 爬蟲類小腦の解剖學的研究

鈴木直吉 (盛岡)

爬蟲類小腦の形態は種類により甚しき差異あり。即ち蛇類小腦は扁平なる小判狀を呈し腦幹の背部に存在し龜類鰐類に於てはほぼ同位上に卵狀背側部隆起の構造を示す。然るに蜥蜴類の小腦は既に KAPPERS, de LANGE, LARSELL, INGVAR 及び其他の學者の報告せる如く小腦皮質は腦幹の背側前方に重折の狀態を示し他の爬蟲類に比して其形態又は組織學的構造に著しき差異を示せり而も其成因に就ては學者の説一致せず今尙未解決に屬す。余は數種の爬蟲類小腦の顯微鏡的檢索を行ひ此種の知見補遺を試みたり。此處には主に蜥蜴類五例即ち *Ignana tuberculata* LAUR, *Ignana* sp ?, *Chamaeleo vulgaris* DAUDIN, *Varanus varius* SHAW, *Varanus salvator* LAUR, に就ての總括的所見を述べ他の爬蟲類小腦との比較觀察を遂げ簡単に其成因に言及せんとす。

(1) 上記の蜥蜴類に於ても其小腦體部は夫々大さ及び形狀を異にす。背側部よりの所見によれば *Sulcus sagittalis med. dorsalis* は龜類鰐類には存在するも蜥蜴類には認めず且つ SVEN INGVAR の所謂前後の裂溝を缺く、然し *Sulcus sagittalis med. ventralis* は極めて明瞭に小腦顆粒層突起部を縦貫して前髓帆の後部に達す。 *Ventriculus cerebelli* は極めて後部にあらはれ小腦體部を縦貫し